

た皮革流通というものが相対化できるのではないかと、他と比べて位置づけることができるのではないかと考えています。二番目の人や物の移動によって形成される緩やかな域圏というものの解明では、これまで指摘されてきた大きな流れから、もう少し小さな流れを見ていくという小さなレベルを設定したことによって、もっと具体的な細かい、新しい流通圏を

模索できるのではないかと考えています。もう一つは地域性の重要視ですが、これからも先ほど述べた熊崎村や、辻村・堀口村・金平村のように筑前国の中には皮革流通で特色のある地域がたくさんありますが、そのようなものの地域性というものを重要視して、研究を行なっていきたいと思っています。

◇ 質疑応答

司会：時代もとんでしまい、内容的にも今日初めてという方もいらっしゃると思うんですけども、まず単語などでもよろしいので、意味がわからないことがあったら。内容についてのコメントもよろしくお願いします。

フロアー（淑明）：これ、江戸時代のどの時期を特に？

報告者：江戸時代の最後の文化文政の頃なので、1800年代とか

フロアー（淑明）：これはですね、日本の賤民についての（部落文書）の解明があるわけなんですか？

報告者：そうです。

フロアー（淑明）：皮多という言葉自体はこの国だけですか？

報告者：日本だけでもこの福岡県や西日本で皮多というのは多く使われているんですけど、やっぱり「えた」と呼ばれることが多いです。

フロアー（淑明）：近現代に入っても筑前国の皮多の人々はこういう仕事を続けているのですか？

報告者：私が検討した熊崎村というところを述べさせていただくと、熊崎村というのは上質な滑革を生産できて大きな力を保っていたのですが、近代になってからタンニンという成分が入ってきたことによって、結構安く簡単に滑革を作れる状況ができたらしくて、熊崎村というのは明治20年代くらいまでは、その工場のようなものがおかれて滑革をつくっていたのですが、大正年間くらいにはやめてしまったというような記録が残っています。

フロアー（淑明）：それでは部落のようなかたちになるわけなんですか？仕事を辞めて

報告者：仕事を辞めても・・・それは、差別の問題とかですよ？

フロアー（淑明）：そうそう、そういうことも含めて。

報告者：それについては、まだよく見ていないので、ちゃんとお答えすることができなくてすみません。

フロアー（淑明）：一般的にはどのような？

報告者：一般的には、やはり差別は残ったりするようです。

フロアー（淑明）：では、その前からやった革を使う仕事を一般的には、このような仕事はやめるのは、ちょっと異常といえますか、普通ではないんですね。

報告者：そうですね。

フロアー（淑明）：その場合は、何かわけがあるのですか？

報告者：私が読んだのは、その村の聞き取り調査なんです

けど、やはり大正年間には、一軒、最後に残ったきりで、ほぼ滑革をつくる家は無くなってしまったというようにその聞き取り調査では述べられていました。

フロアー（淑明）：日本では今、こういう部落が残っている地域はありますか？

報告者：部落というものは残っている。部落問題自体は、まだ残っているものです。

フロアー（淑明）：全国的にそれは今もありますか？

報告者：全国的にというと、やはり関東や東北の方とかは、部落の数が相対的に少なかったせいがあるかもしれないですが、そんなにはなくて、西日本の方に多いです。

フロアー（お茶）：賤民の実態を明らかにするとあるのですが、これは生活のことか、身分制社会の政治的なことをいうのか、それとも賤民の人たちの生活面を聞き取り調査等で、明らかにするというのか、それを聞きたいなと思ったのですが。

報告者：賤民の実態というのは、生活を明らかにするというよりは、むしろ皮革流通で果たしていた役割を明らかにすることによって、身分制社会の特質を見ていくということです。例えばその皮革を生産するのは皮多しかできないんですね。しかし、その流通というのは、意外と普通の人もできる部分があったりして、その様なところにいろいろ身分制の特質が見られるのではないかとってはいるんですけども。

フロアー（お茶）：そういう流通構造というのは近世を通して変遷はあるんですか？

報告者：もちろん変遷はあります。

フロアー（淑明）：面白く思ったのが、近代という時代は韓国でも日本でも身分制はなくなるんですけども、大体日本ではこういう革を使う仕事をやってる賤民という人々は、近代化しても、そういう仕事をやるんでしょうか？韓国では近代に入ってから、こういう集団というのは、すぐ解体されるんです。それは日本と韓国を比較して、とてもおもしろい所だと思います。産業のことを考える時に、大きな問題だと思うんですけど、それがなぜなのか。面白く思います。

フロアー（淑明）：少し話がかわる質問なんですけれども、皮革流通に関しての勉強をはじめたきっかけとかありますか？

報告者：皮革流通を始めたきっかけ・・・

フロアー（淑明）：特別な何かがあるのかなあと思いました

報告者：きっかけ・・・。私はもともと賤民の研究、身分制の研究がしたかったので、賤民というものをまず取り上げることは決めていたんですけども、皮革流通になったというのは正直に言うと、面白い史料があったからという事しか理由がないんですけども。

フロアー（淑明）：身分制の研究をして勉強をしてそうになったということなんですね。

フロアー（お茶）：どんな点がおもしろかったのですか？

報告者：史料を読んでいてですか？

フロアー（お茶）：はい。

報告者：筑前国は草座という組織があると言いましたけど、そこの草座が残した記録があって、草座からの視線ではありますが、結構細かい点まで書いてあることが、面白いわけなのですけども。そうですね、すみません、面白さを語ってしまって。いろいろありすぎて今思いつかないのですけれども。

フロアー（淑明）：賤民がこういう流通に関わるというのは、よくあることなんですか？

報告者：はい。東日本と西日本では構造は違いますけれども。

フロアー（淑明）：金持ちになることもあるって事なんでしょうね。経済的には

報告者：はい、経済的にとても裕福なえたが沢山、大坂にも。

フロアー（淑明）：身分的には別の人でしょう？

報告者：そうですね。とても裕福なえたがいた。

フロアー（淑明）：独占ですよ。一種の。

報告者：はい。

フロアー（淑明）：韓国でもそう。

フロアー（淑明）：そうですね、朝鮮時代も。

フロアー（淑明）：主に近代に入って、お金がものすごく高くなるんですが、韓国の場合すぐ解体されるんですけども日本は、それを続けたことに意味があるわけですね。生活のためとか、お金儲けのためとか。儲けになるから。韓国では、そういうものがすぐ解体される。面白いところだなと思う。

フロアー（淑明）：どうして？

フロアー（淑明）：それは（笑）、やっぱりいろいろと。儒教の論理といいますか。勉強というものがものすごく、日本よりはそれに一つの意味があると思います。それ以外にも。

フロアー（淑明）：身分を隠したいという、そういうこともありますね。

フロアー（淑明）：これは、日本の文化と韓国の文化の違いの非常に重要なところなんです。こういう話をちょっと考えますと、日本の場合、大体、仕事というものが目的になる。韓国の場合は、お金儲けするとか、名誉を得るためだとか、権力を得るためだとか。そういういわゆる文化の違いというものも、多分この問題に関わってくるんじゃないかと思います。